

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に関する アンケート調査結果(要旨)【小鮎地区】

1. 調査概要

目的	市立小・中学校の適正規模・適正配置の方策検討に係る基礎資料として、児童・生徒 ^{※1} (以下「児童等」という。)の保護者、未就学児の保護者、地区住民の皆様の意識を把握するため		
調査名	厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に関するアンケート調査		
種別	児童の保護者	未就学児の保護者	地区住民
調査対象	小鮎小学校、飯山小学校に在籍する全ての児童の保護者	小鮎小学校、飯山小学校の通学区域に在住する全ての未就学児の保護者	小鮎地区に在住する18歳以上の市民(無作為抽出)
実施期間	令和5年1月31日～2月17日		同5年2月3日～2月20日
配布数 ^{※2}	440人 [うち小鮎 316人、飯山小 124人]	251人 [うち小鮎小 188人、飯山小 63人]	1,104人
合計	1,795人		
回答者数(回答率)	151人(34.3%) [うち小鮎小 97人(30.7%)、飯山小 54人(43.5%)]	69人(27.5%) [小鮎小 52人(27.7%)、飯山小 17人(27.0%)]	342人(31.0%)
合計	562人(31.3%)		

※1…本アンケートでは「児童」は市立小学校に通う小学校1～6年生、「生徒」は市立中学校に通う中学校1～3年生を指します。

※2…1世帯につき1アンケート調査を送付しています。複数の児童や未就学児がいる場合、調査票は最も年長のお子様の区分で集計しています。

例)1世帯に、小鮎小学校の児童と未就学児の2人がいる場合、小鮎小学校の児童として集計

2. 設問概要

設問区分	設問内容	設問回答対象
(1) 地区の子どもを取り巻く環境について	地区の子どもを取り巻く環境の認知状況	児童及び未就学児の保護者、地区住民
(2) 適正規模について	適正規模の範囲の妥当性及びその理由、クラス替えの必要性	児童及び未就学児の保護者
(3) 学校規模適正化の方策について	学校規模適正化で重視すべきこと	
(4) 地域における学校の役割について	学校に行く頻度や理由、地域における学校の役割、教育環境の充実以外で考慮すべきこと	地区住民
(5) 地域に学校を維持することについて	地域・地区に学校を維持すること	児童及び未就学児の保護者、地区住民
(6) 適正規模・適正配置の取組への意見等について	取組に対する意見や提案	

3. 調査結果概要

※設問の選択肢は、場合により語句を簡略化しています。

※選択肢「その他」は順位に含めていません。

(1) 地区の子どもを取り巻く環境について

① 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向)について

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	知っていた	60.9%	ある程度知っていた	34.4%	あまり知らなかった	3.3%
未就学児保護者		46.4%		36.2%	あまり知らなかった (他1件同率の回答あり)	8.7%
地区住民		46.3%		39.8%	知らなかった	7.7%
全体	知っていた	50.3%	ある程度知っていた	37.9%	知らなかった	6.1%

回答の傾向

・「知っていた」、「ある程度知っていた」の合計が、児童保護者は95.3%、未就学児保護者は82.6%、地区住民は86.1%で、全体として88.2%と高い割合となっており、地区の児童・生徒の減少傾向について相当程度認識していると考えられる。

(2) 適正規模について

① 方針で定めている適正規模の範囲について

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	おおむね適切だと思う	53.6%	適切だと思う	37.7%	あまり適切ではない	6.0%
未就学児保護者		60.9%		27.5%		10.1%
保護者全体	おおむね適切だと思う	55.9%	適切だと思う	34.5%	あまり適切ではない	7.3%

回答の傾向

・「適切」、「おおむね適切」の合計が、児童・未就学児保護者ともに90%程度であり、方針で示している学校の適正規模の範囲について、ある程度妥当性があると捉えられていると考えられる。

【①で「適切」、「おおむね適切」の選択者のみの設問】

② ①で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について(3つまで選択可)

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	20.6%	児童・生徒の人間関係が深まりやすい	17.1%	多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	14.6%
未就学児保護者	児童・生徒の人間関係が深まりやすい	18.4%	豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	16.4%	運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	15.1%
保護者全体	教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	18.5%	児童・生徒の人間関係が深まりやすい	17.5%	豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	14.7%

回答の傾向

- ・児童保護者の1位、2位、未就学児保護者の1位は小規模な学校で考えられるメリットが選択されている。
- ・児童保護者の3位、未就学児の2、3位は大規模な学校で考えられるメリットが選択されている。
- ・小規模な学校で考えられるメリットを意識する保護者と大規模な学校で考えられるメリットを意識する保護者の両方が存在している。全体としては、小規模な学校で考えられるメリットを意識している保護者の割合が高いものと考えられる。

【①で「あまり適切でない」「適切でない」の選択者のみの設問】

③ ①で「あまり適切でない」「適切でない」と回答した理由について(3つまで選択可)

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい	30.8%	児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	15.4%	学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい	11.5%
未就学児保護者		20.0%	多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	20.0% ※同率1位	習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	20.0% ※同率1位
保護者全体	全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい	26.8%	児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	14.6%	学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい(他1件)	12.2%

回答の傾向

- ・児童保護者では1、3位は規模な学校で考えられる課題、2位は小規模な学校で考えられる課題が選択されている。
- ・未就学児保護者では大規模な学校で考えられる課題と小規模な学校で考えられる課題が同率1位で選択されている。
- ・方針で示す適正規模の範囲について小規模すぎると考える保護者と大規模すぎると考える保護者の両方が存在していると考えられる。全体では、大規模な学校で考えられる課題を意識している保護者の割合が高いものと考えられる。(児童・未就学児保護者ともに1位)

④ 学年内でクラス替えができることの必要性

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	必要だと思う	61.5%	どちらかといえば必要だと思う	28.4%	どちらかといえば必要ではない	6.1%
未就学児保護者		59.4%		27.5%		11.6%
保護者全体	必要だと思う	60.8%	どちらかといえば必要だと思う	28.1%	どちらかといえば必要ではない	7.8%

回答の傾向

- ・児童・未就学児保護者ともに同じ順位となった。
- ・「必要」、「どちらかといえば必要」の合計選択割合が、児童・未就学児保護者ともに 90% 近くあり、クラス替えが必要と考えている割合は非常に高い。

(3) 学校規模適正化の方策について

① 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて(2つまで選択可)

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	通学に係る児童・生徒の負担が大きくなりたくないこと(必要に応じて通学負担軽減の方策が図られることを含む)	42.9%	通学路の見直しや整備など、通学の安全性が確保されること	27.0%	長期的に一定の集団規模を維持でき、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成などが図られること	13.1%
未就学児保護者		40.9%		34.1%		10.6%
保護者全体	通学に係る児童・生徒の負担が大きくなりたくないこと(必要に応じて通学負担軽減の方策が図られることを含む)	42.3%	通学路の見直しや整備など、通学の安全性が確保されること	29.2%	長期的に一定の集団規模を維持でき、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成などが図られること	12.4%

回答の傾向

- ・児童・未就学児保護者ともに同じ順位になっており、「通学の負担が大きくなりたくないこと」や「通学時の安全が確保されること」が最も重視され、その次に「一定の集団規模が維持されること」が選択されている。
- ・「通学の負担が大きくなりたくないこと」は児童・未就学児保護者ともに選択割合が 40% を超えており、特に重視していることが分かる。

(4) 地域における学校の役割について

① 過去1年間に学校に行った頻度について

回答者区分	1位		2位		3位	
地区住民 (世帯内に児童等有り)	半年に1回以上	48.9%	週1回以上	13.3%	月1回以上(他1件同率の回答あり)	13.3% ※同率 2位
地区住民 (世帯内に児童等無し)	1回も行っていない	75.0%	年1回以上	13.2%	半年に1回以上	5.7%
住民全体	1回も行っていない	66.9%	年1回以上	12.9%	半年に1回以上	11.4%

回答の傾向

- ・世帯内における児童等の有無で大きな差異がある。
- ・世帯内に児童等がいる場合は、大多数が年に1回以上学校に行っている一方、世帯内に児童等がない場合、75.0%の人は1回も学校に行っていない。

【①で「1回も行っていない」を除く回答をした選択者のみの設問】

② 過去1年間に学校に行った理由について(いくつでも選択可)

回答者区分	1位		2位		3位	
地区住民 (世帯内に児童等有り)	学校行事(例:運動会や発表会、授業参観など)	34.3%	子どもの見送りやお迎え(例:児童クラブなど)	23.5%	保護者としての活動(例:PTAなど)	11.8%
地区住民 (世帯内に児童等無し)	選挙での投票	29.5%	学校行事(例:運動会や発表会、授業参観など)	15.9%	体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ・文化活動など)	10.6%
住民全体	学校行事(例:運動会や発表会、授業参観など)	23.9%	選挙での投票	20.1%	子どもの見送りやお迎え(例:児童クラブなど)	14.5%

回答の傾向

- ・世帯内における児童等の有無で大きな差異がある。
- ・世帯内に児童等がいる場合は、児童等の保護者などの立場で学校に行っている割合が高く、世帯内に児童等がない場合は、選挙での投票や体育館や校庭などを利用した活動など学校施設を利用するために学校に行っている割合が高い。

③ 地域における学校の役割で重要なことについて(2つまで選択可)

回答者区分	1位		2位		3位	
地区住民	地域の防災の拠点としての役割	35.3%	児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割	26.2%	地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割	12.1%

回答の傾向

- ・「地域防災の拠点としての役割」が最も高い選択割合となっており、続いて、「子育て環境としての場」、「地域コミュニティとしての場」となっている。
- ・地域の身近な防災・コミュニティの拠点施設としての役割が重視されている。

④ 学校規模適正化に当たり教育環境の充実以外に考慮すべきことについて(2つまで選択可)

回答者区分	1位		2位		3位	
地区住民	児童・生徒の放課後の居場所・活動場所、地域防災の拠点など、地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること	33.4%	将来的に児童・生徒数が減少する見込みであることを踏まえつつ、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内に小・中学校がそれぞれ1校以上維持されること	20.3%	学校施設の維持管理や再整備に係る経費などを考慮し、適正な規模での施設更新や施設の複合化が図られること	13.7%

回答の傾向

- ・1位に「地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること」、2位に「地域内の小・中学校が1校以上維持されること」が選択されており、地域コミュニティ拠点として学校を維持していくことが重視されていると考えられる。
- ・3位に「経費などを考慮し、適正な規模での施設更新や複合化が図られること」が選択されており、適切な施設管理の視点も意識されている。

(5) 地域に学校を維持することについて

① 各地域内に学校を維持することについて

回答者区分	1位		2位		3位	
児童保護者	できれば維持すべき	43.7%	維持すべき	33.8%	必ずしも維持しなくてよい	21.2%
未就学児保護者		41.2%		29.4%		26.5%
地区住民		46.6%		33.2%		17.5%
全体	できれば維持すべき	45.1%	維持すべき	32.9%	必ずしも維持しなくてよい	19.6%

回答の傾向

- ・全ての回答者区分で、同じ順位となっている。
- ・「できれば維持すべき」や「維持すべき」を合わせた選択割合は、全ての回答者区分で70%を超えており、地域に学校を維持することが望ましいと考えていることがうかがえる。

(6) 適正規模・適正配置の取組への意見等について

① 適正規模・適正配置の取組への意見・提案について

回答者区分	自由記述回答数
児童保護者	50 件
未就学児保護者	25 件
地区住民	70 件
全体	145 件

回答の傾向

・自由記述による回答内容については、次の傾向が見られた。

地区	順位	区分	件数
児童保護者	1位	通学関係	21 件
	2位	取組の考え方・進め方・スケジュール	15 件
	3位	教育環境	5件
		地域づくり・地域コミュニティ	5件
未就学児保護者	1位	通学関係	12 件
	2位	取組の考え方・進め方・スケジュール	11 件
	3位	教育環境	1 件
		地域づくり・地域コミュニティ	1 件
地区住民	1位	取組の考え方・進め方・スケジュール	26 件
	2位	通学関係	20 件
	3位	地域づくり・地域コミュニティ	6件

※区分は、「取組の考え方・進め方・スケジュール」、「教育環境」、「通学関係」、「地域づくり・地域コミュニティ」、「その他」の5区分で分類。「その他」は順位には含めていません。